



平成 28 年 6 月 3 日

各 位

株式会社 大塚家具  
 代表取締役社長 大塚 久美子  
 (JASDAQ・コード番号 8186)  
 問い合わせ先  
 執行役員財務部長兼経営企画室長  
 杉谷 仁司  
 電話 03-5530-5522

## 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 28 年 2 月 12 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 平成 28 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1 株 当 たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	28,900	107	197	54	2.99
今回修正予想 (B)	24,186	△1,942	△1,834	△1,975	△109.75
増減額 (B - A)	△4,714	△2,049	△2,031	△2,029	—
増減率 (%)	△16.3%	—	—	—	—
(参考) 前期第 2 四半期実績	30,151	493	611	359	19.38

## 2. 平成 28 年 12 月期業績予想 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益	1 株 当 たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	58,565	500	636	368	20.38
今回修正予想 (B)	53,851	△1,549	△1,395	△1,661	△93.50
増減額 (B - A)	△4,714	△2,049	△2,031	△2,029	—
増減率 (%)	△8.0%	—	—	—	—
(参考) 前期実績	58,004	437	633	359	19.38

## 3. 修正の理由

平成 28 年 12 月期第 1 四半期におきましては、昨年からの中期的な営業・マーケティング戦略の見直しの一環として、新築家具需要に加え重要性を増している買い替え・単品買い需要取り込みに向けて、店舗リニューアルをはじめとする既存店改革、IDC パートナーズを生かした顧客との長期的な関係構築、法人需要取り込み強化に向けた諸施策に取り組みました。2 月には、全店舗をリニューアルオープンし、新たなオペレーション体制を本格的に始動しました。店舗リニューアル等ハード面での改変・整備は進みつつあり、商業立地にある路面店では来店客数が増加しました。しかしながら、店舗の受付の機能など旧オペレーション体制と大きく変化した顧客対応オペレーションの

熟練度が3、4月の需要期までに到達するべき程度に至らなかったことから、増加した来店客数を生かすに至らず、消費環境の変化も相まって売上は低調となりました。

第2四半期におきましては、第1四半期に比べ顧客対応オペレーションにおいて改善が見られるものの、期初計画の売上を上回る水準には至っておらず、第1四半期の売上の不足分を第2四半期で取り戻すことは難しいと判断し、第2四半期累計期間の業績予想につきましては、売上高を241億86百万円(前回予想比16.3%減)へ修正いたします。販売費及び一般管理費につきましては、広告宣伝費をはじめとする諸経費の抑制に努め147億56百万円(前回予想比6.4%減)へ修正し、営業損失は19億42百万円(前回予想は1億7百万円の利益)、経常損失は18億34百万円(前回予想は1億97百万円の利益)、四半期純損失は19億75百万円(前回予想は54百万円の利益)へ修正いたします。

なお、通期業績予想につきましては、新たな顧客対応オペレーションの熟練度の向上や消費環境の見通しなどを総合的に勘案した上で第3四半期以降の予想を合理的に変更するには至らないと判断し、第2四半期累計期間での修正額のみを反映させ、売上高を538億51百万円(前回予想比8.0%減)、営業損失は15億49百万円(前回予想は5億円の利益)、経常損失は13億95百万円(前回予想は6億36百万円の利益)、当期純損失は16億61百万円(前回予想は3億68百万円の利益)へ修正いたします。業績の総合的な状況を踏まえ、業績予想の変更が必要となる場合には改めてお知らせいたします。

(注) 上記の予想につきましては現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等はさまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上